

2023 年度研究助成 研究実績報告書

代表研究者	松岡 優菜
研究テーマ	トラウマ体験者の自己客体化指標の開発

I. 研究の背景と概要

背景

人は、モノとして扱われる体験をすると、その第三者の目線を内在化し、自身のことをモノとして見るようになる。このことを、「自己客体化」という (Fredrickson & Roberts, 1997)。このような自己客体化のプロセスは対人関係のなかで引き起こされ、虐待などのトラウマティックな体験から、自己客体化が引き起こされることが指摘されている (Talmon & Ginzburg, 2016)。特に近年では、性暴力被害との関連性が検討されてきており、性暴力被害者は自己客体化傾向が、性暴力被害経験の無い人よりも高いことが示されている (Talmon & Ginzburg, 2016)。このように、トラウマ体験者の自己客体化に着目することは、トラウマを抱える者の心理的苦痛を理解するために必要であるといえる。しかしながら、本邦では自己客体化を測定するための指標が見受けられない。そこで、本研究では研究 1、研究 2 を通じて、諸外国で自己客体化を測定するために使用されている Self-Objectification Scale (SOS) の本邦における信頼性・妥当性の検討を実施した。

方法

研究 1、研究 2 ともにインターネット調査会社 (マイボイスコム) が保有するモニターを対象として Web 式質問紙調査を実施した (研究 1: 女性 429 名, 男性 172 名; 研究 2: 女性 419 名)。研究 1 では、原著者の許可を得たうえで、SOS を邦訳し、日本語版 SOS 尺度を作成した。そして、確認的因子分析、信頼性係数の算出、相関分析の実施を通して、信頼性・妥当性の検討を行った。研究 2 では、女性を対象に質問紙調査を実施し、確認的因子分析および信頼性係数の算出、性暴力被害者における SOS 得点と PTSD 関連変数との関連性を検討し、日本語版 SOS のさらなる妥当性の検証を実施した。

II. 研究の成果

日本語版 Self-Objectification Scale の作成

研究 1、研究 2 を通じて、日本語版 Self-Objectification Scale を作成した結果、日本語版 SOS は一定の信頼性・妥当性を有していることが示された。日本語版 SOS は、研究 1、研究 2 を通じて原版同様に、2 因子構造が示された。さらに、SOS と小児期虐待経験について、先行研究同様に、SOS の合計または各下位因子と小児期虐待体験それぞれとの有意な関連性が確認された。また、恥と SOS の各因子のあいだには先行研究同様に正の有意な関連性がみられた。この傾向は、18~29 歳の女性と、18~59 歳の男性・女性とおおむね同様であった。このことから、日本語版 SOS は 18~59 歳の女性から男性まで適用可能であることが示された。

性暴力被害者における SOS と PTSD 関連変数との関連性

本研究において、性暴力被害および性的に不快な体験を持つと回答した者は全体の 3 割ほどであった。若年層を対象とした調査によると、26.4%が性暴力被害に遭っていることが確認されている (男女共同参画局, 2023)。つまり、性暴力被害者への支援ニーズは依然として高い実態にあることが本研究からも示された。また、性暴力被害を現在もっとも苦痛であると捉えている者と、それ以外のトラウマ体験者との SOS 得点の比較を行った結果、性暴力被害トラウマ群のほうが SOS 得点が有意に高いことが示された。つまり自己客体化は、特に性暴力被害者の心理的苦痛を理解する際の、重要な変数である可能性がある。

そして、性暴力被害者の PTSD 関連症状と SOS との間では、凍結反応やトラウマ体験から生じる恥や罪悪と現在もモノとして周りに扱われている感覚と SOS 傾向が有意に関連していた。つまり、本研究によって性暴力被害者の PTSD 関連症状と自己客体化の関連が実証的に示された。先行研究では、客体化の経験が凍結反応に繋がることが予想されているほか (Moor et al., 2013)、自己客体化が抑うつなどの精神的健康の悪化に繋がることが指摘されている (Fredrickson & Roberts, 1997)。今後は、自己客体化が PTSD 症状や関連症状へ及ぼす影響性について詳しく検討する必要があるだろう。また、緩和要因として、感情調節の力やセルフ・コンパッションを高めることが、自己客体化を低減する可能性が示唆された。今後は、日本語版 SOS 尺度を用いて、PTSD 関連症状への影響性を検証していくことや、自己客体化を低減するためのアプローチ法の開発が求められる。